
最後の賭け

志崎 遥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の賭け

【Nコード】

N4968P

【作者名】

志崎 遥

【あらすじ】

それが彼らの、最初で最後の、たった一度の賭けです。

（前書き）

切ないお話を目指した…つもりなのですが…。
……前作と同じく駄作です。

ねえ、私と賭けをしない？

頭の中で、彼女の言葉を反芻する。

病院の個室で、もう自力では体も起こせなくなっていた彼女は、
楽しげな口調で、見舞いに来た俺に話しかけた。

今度はどんな悪ふざけを思いついたのだろうかと苦笑しながら、
鸚鵡返しに聞き返すと、彼女はこう言った。

そう、賭け。私が次の春まで生きていられるかどうか。

いつだって明るかった彼女が、あんな気弱な台詞を吐いたのを聞いたのは初めてのことだった。

らしくもない、そんなことを言っただけは治るものも治らないと言うと、彼女は弱々しく笑った。健康だったときのそれとは、比べものにならないくらいに。

なら、あなたは“生きている”ほうに賭けるのね？ いいわ、それで決まり。

投げやりにしても、悲観的にでもなく言う彼女に二の句が継げなかった。

あなたが勝ったら、私は何だってするわ。だけどその代わりに、私が勝ったら……

時が経つのは早いもので、あれからもう一年が過ぎていた。

墓石が並ぶそこは綺麗に掃除されてあって、悲しいまでの静けさが存在する。

彼女の名前が刻まれた墓石の前に座り込み、花を供える。
良
い香りのする、明るい色のこの花は生前彼女が好いていた。

「賭けは君の勝ちだよ」

もしここに彼女がいたなら、ほらね、と笑っていたことだろう。そう思うと、可笑しいんだか切ないんだか、さまざまな感情がぐちゃぐちゃに入り混じって目頭が熱くなってくる。だが、彼は強引に顔をこすり、それをやり過ごした。

「大丈夫　約束は守るよ」

彼は彼女の言う“賭け”の内容を頭に浮かべる。

だけどその代わり、私が勝ったら。

戸惑う彼のことはお構いなしに、彼女は続けた。

笑っていてね。あなたは、幸せになるの。絶対よ。

震える声でそう言った彼女は、きっと、必死に涙を堪えていたのだろう。しかし思わず駆け寄って見た顔に浮かんでいたのは、穏やかな微笑だけだった。

（おまえが笑ってんのに、俺が泣くわけにはいかないよな）

「……ありがとう」

彼はそう呟き、笑った。

彼女も、笑ってくれた気がした。

（後書き）

読んでくださってありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4968p/>

最後の賭け

2010年12月14日21時45分発行